

午前 9 時頃患家ニ着キ時 3 人何レモ濡レ鼠ノ如ク 4 肢ヲ垂レ近クノ小川ヨリ歸宅ス。
「主訴」本早朝 (8 日) 息子丙氏ガ草刈ニ行キ漆ノ木ノ下ヲ通テ歸宅セシニ 4 肢先端及ビ
頭部顔面頭部ニ痒痛ガアルノデ石鹼ニテ 4 肢ヲ洗ヒシニ、隣ニ是ヲ見テ居タル父母ニ又該
石鹼液ガ飛ビ、其レヨリ 3 人共ニ同ジ訴ヲ見タリ。殊ニ息子丙氏ノミハ症狀惡化シ隣人ノ
勸メニヨリ近クノ小川ニ入リ冷水ニ浸ツタト云フ。

「已往症」健全ニシテ疾患無シ。

「症狀」息丙氏ノミ脈搏 102, 時ニ 20 搏ニテ結代スレドモ心臓衰弱ヲ見ズ。然シ肢端紅
痛症ノ如キ特有ノ症狀ヲ呈シ 4 肢ノ末端ニ腫脹潮紅、灼熱ヲ來ス。刺痛、裂痛、或ハ火ニ
燒クガ如ク、痒痛ヨリモ寧ロ疼痛ノ爲反轉シテ苦悶ノ狀見ルニ堪ニ難キモノノ如シ。余ニ
向テ緩解法ヲ訴フ。殊ニ頭部ヲ自己ノ手ニテ叩クガ如シ。父母モ大體是ト大同小異ノ症狀
ナルモ脈ノ結代ナシ。然シ何レモ胃腸症狀、腦症狀等ヲ認メズ (以上文献ヲ見ルニ西川義
方博士菌中毒ノ診斷ト治療其九、からはつたけノ症狀ニ一致ス)。

「類症鑑別」(1) 漆中毒: 患者ハスク訴ヘレドモ漆疹ニ見ルガ如キ皮膚浸潤モナシ。又
本人等ハ再三うるシニ觸レシモ未ダカツテ斯カル局所症狀ヲ呈セズト。(2) 食餌性中毒、
例ヘバ蕁麻疹: 原因ニ相違アリ、(3) 藥品中毒: 發疹、症狀ヲ全然異ニシ又田舎ノ農夫ニ
斯カル藥品ハ使用セザル事。

依テ試ミニ昨夜 (7 日) 及ビ本朝ニ何カ食膳ニ上セシモノナキヤラ問ヒシニ、息子丙氏ハ
昨日午後近クノ雜木林ニ薪ヲ採リニ行キントコロ、くぬぎ茸 (俗稱なば) ヲ發見、是ヲ持
參シテ 3 人共テ食膳ニ上セリト云フ。然シ同夜ハ何ノ訴モナカリシト。依テ實物ノ所在ヲ
質シタルニ幸ニ一片ヲ得、土井氏ニ鑑定ヲ乞フ。

「経過」患者ハ約 2 里近クノ田舎ニシテ余ハタマ一度診療セシノミニシテ翌日症狀サシテ
變化無キ儘、同僚松山醫師ノ診療ヲ乞ヒタリシガ翌々日頃ヨリシテ漸次症狀ハ消退シ、幸
ニ合併症モ起ラズ生命ニ事無キヲ得タリト云フ。

「標本」無莖菌類ノ一種きくらげニ似テ、蓋ハ平滑、黑褐色、柔軟ナル性質ヲ有ス。味
ハ一種辛烈ナリ。

最後ニ貴重ナル診療記並ニ標本ヲ寄セラレタル佐伯醫師並ニ土井氏ニ深謝スル。

本卷第四號採摭餘錄 (其三) 訂正

誤		正	
p. 226, 第 1 行.	An observation on	An observation of	
p. 230, 第 3 行. (第 6 圖)		(第 5 圖 1)	
第 14 行.	E	F	
p. 233, 第 4 行.	膜組織	厚膜組織	
第 5 行.	走間	走向	
p. 237, 第 5 行.	形態學	系統學	